

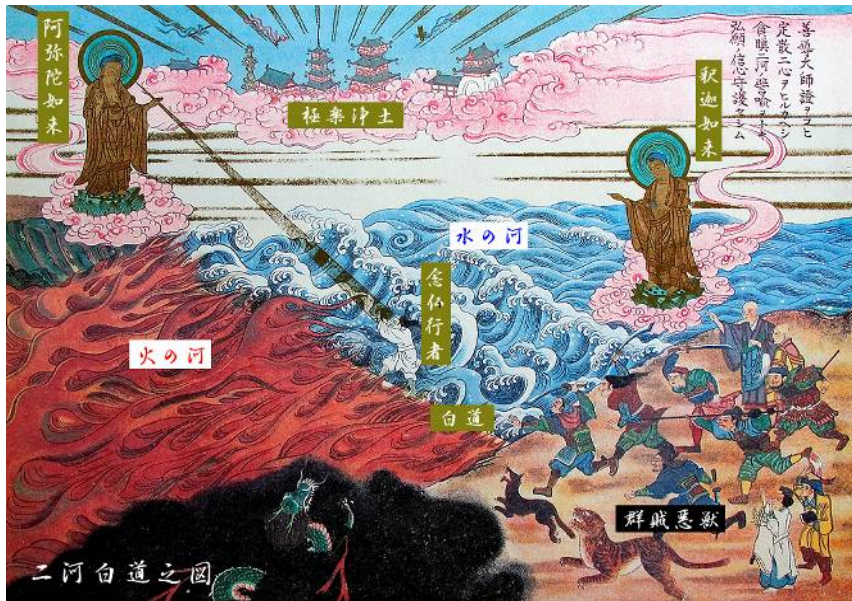
安楽寺だより

第38号

紙面内容

- 2面 疑問に答える(なぜ勤めする?)
- 3面 八事霊園で春彼岸墓法要勤める
- 4面 日本仏教史補足 平安時代②

編集・発行 安楽寺住職 吉田 和良
 名古屋市瑞穂区井戸田町一の八〇
 電話 〇五二(八四一)二六〇六



二河白道のたとえ その⑪

歩む道の発見が感動を得る

親鸞聖人が大切にされた、善導大師の二河白道のたとえのおはなしは、最終章を迎えます。

旅人が、お釈迦さまと阿彌陀さまの呼びかけの中で、「白道の歩み」を始めます。歩むべき道そのものの発見こそが感動でした。歩むべき道に気づけば、限りなき歩みを始めることが出来るからです。

旅人は一歩二歩と歩むとき、思いもかけず東の岸よりの呼び声に気づきます。「**仁者(きみ)かえり来れ、この道険悪なり。過ぐることを得じ。必ず死せんことを疑わず**」とは、「帰ってきなさい。この道は険しく危険だ」「渡りきることは出来ず、必ず死んでしまう」との群賊の呼び声でした。

以前、このたとえのおはなしは「水の

河のしづき、火の河の火焰」を見て立ち止まる旅人に、世間の常識や価値観によつて道を求めるころを捨て去るよう迫ってきた、あの群賊悪獣が、再び呼びかけます(安楽寺だより第三〇号1面参照)

白道を歩み始めた人には、根拠のないことば(妄説)で歩みを妨げるものが必ず現れ、つきまとうというこの指摘であります。

「我等すべて悪心あつてあい向うことなし」とは、群賊達の呼びかけは「決して悪意があつて言っているのではないですよ」と一見そのひとを思つての善意の勧めであるかのようにです。しかし、これは何処に向かつているかわからない出口なき世界に、再び立ち戻らせようとする勧めであります。

旅人は、この声をどのように受け止めるのでしょうか?最終回の次号で明らかにします

あるいは行くこと二分三分するに、東の岸の群賊等喚(よば)うて言わく、「仁者(きみ)かえり来れ。この道険悪なり。過ぐることを得じ。必ず死せんことを疑わず。我等すべて悪心あつてあい向うことなし」と。...

疑問に答える①

なぜお勤めする？

浄土真宗の門徒は、正信偈のお勤めを大切にしています。今から数十年ほど前までは、ごく普通の家庭で正信偈をお勤めする習慣がありました。が、子や孫の代にはそうした習慣が伝わっていない現状のようです。そもそもなぜお勤めをするのでしょうか？

正信偈は親鸞聖人が教行信証というご書物の中で書かれたものです。

「正」という字は、邪に対し、迷に対し、狂に対して立てられたものです。私たちは「信」ずると言っても、邪信、迷信、狂信など様々です。聖人は、「ふたごころなく正信念仏しなさい」と申されます。「偈」とは歌という意味で、七高僧を通して伝承された本願念仏の教えをみんなで唱和することです。

正信偈は、今から五百余年前の

蓮如上人在世の時代から、全国の門徒に唱和され続けられています。

真宗の教えは、商売繁盛・家内安全・無病息災などを願う宗教ではありません。どこまでも私が生きている事実、そして、お念仏の教えに出会った慶びを、仏恩報謝として受けとめていく教えです。

「子は親の後ろ姿を見て育つ」という言葉があります。大事なことは、お勤めの意味・大切さに気づいた人から順に「お勤めしましょう」と言い続けることです。



疑問に答える②

なぜ数珠を掛ける？

数珠は仏事には欠かせません。ご法事や葬式に参列するとき、数珠をもつていきます。なぜ数珠が必要なのですか？

世界の仏教国を調べても、タイやミャンマーは数珠を持ちません。歴史的に調査して答えることは難しいことのようにです。

しかし、数珠を持つ私たち仏教徒は、何のために数珠を掛けるのかをはつきりさせておきたいものです。

真宗の教えを深くいただく仲野良俊先生は、次のように申されています。

「数珠の珠は百八個、煩惱の数です。煩惱を手に掛けて、それをみなほとけさまの前に差し出す。それが拝むということですよ」

私たちは、どこまでも煩惱を満たす道を歩んで救われたいと願います。健康・金銭・地位・名誉のために頑張ります。煩惱に終わりはな

く、どこまで行っても救われたところに到りません。

ところが、「この道のほかに、もう一つの道があります。それはほとけさまに煩惱を差し出すことで救われようとする道、これが仏道です。仏教徒は数珠を掛けて拝むという姿勢でこれを示す」と説明できるのではないのでしょうか。

数珠を掛けて煩惱を差し出しても、煩惱は手に掛けられたままです。しかし、その時私たちは「これが私の煩惱だ、私はこれに縛られて苦しんでいる」とその都度知らされます。「煩惱が煩惱であったと知られる」ところに救いの道が開けてきます。そして煩惱の縛りから自由になる道を歩み始めます。

浄土真宗の救いの道は、「数珠を掛けて拝む、阿弥陀さまの尊顔を拝し、わが煩惱を凝視し、念仏する」と言えます。

春彼岸墓法要を勤める



コロナ対策をして実施

三月十九日、穏やかな日差しの中、八事霊園墓地で春彼岸墓法要をお勤めいたしました。新型コロナウイルス感染症拡大が心配でしたが、屋外の法要であり、実施いたしました。な

るべく接触を避けるために相乗りタクシーの利用はひかえました。また除菌スプレーやマスクを用意してお参りをいたしました。

お出かけいただいた方は例年より少ないご参拝でしたが、彼岸に往生された亡き方々を偲び、今ここに生かされているわが身を振り返りながら、皆様にお焼香していただきました。

二年前より、永代供養墓法要の模様を、安楽寺会館にラインで送って同時中継をし、同時にお焼香をしていただいております。この度、新型コロナウイルス対策と同時中継の様子を、名古屋テレビが取材に來られ、当日の夕方ニュースで放映されました。ニュースは大勢の方が見ていただいたようです。

会館の換気を良くし、来館された皆様の体調にも気配りしながら、お参りしていただきました。

法要に参加いただきました皆様、テレビで見ていただいた皆様に感謝申し上げます。



春季永代経法要を中止致します

毎日のニュースでご存知のように、新型コロナウイルス感染症拡大が全国を揺るがしています。こうした状況の中、感染拡大を防止して安全を確保するため、法要中止をせざるを得ないと判断いたしました。ご門徒の皆様には、ご理解いただきますよう、よろしくお願いいたします。

仏教豆知識

第三十八回



日本仏教史

補足②平安時代

空海は讃岐国（現在の香川県）生まれ。長岡京の大学寮で儒学を学んだ後、世俗化した官寺を嫌って、山に入り仏道修行をしました。その後、最澄とともに唐の国に渡り、密教の秘法を相承して教義・実践の体系を組織して真言宗を開創しました。

八一六年（弘仁七年）高野山に金剛峯寺を建立して、世俗化した南都の都市仏教・学問仏教を否定して山岳仏教・実践仏教を確立しました。



弘法大師 空海

八二三年（弘仁十四年）には官寺であった東寺を与えられ、真言密教による道場としていきました。そして南都の仏教の諸教を真言密教で包み込み、南都で行なわれる修法をすべて密教化する方法で、鎮護国家の仏教を変革させていきました。

八三五年（承和二年）に空海は六十二歳で没しましたが、その後真言宗は、国家・貴族の保護を受けて祈禱仏教の道をたどることになりました。

なお、空海は讃岐の満農池の修築の社会事業や、庶民教育のために綜芸種智院を創設するなど教育事業を行ない、いわゆる済生利民にも力を尽くしました。

有名なことわざ

弘法も筆の誤り

たとえ大人物であっても 誰にでも
間違いはあるもの

弘法筆を選ばず

字を書くのが上手な人は 筆の良い
悪いを問わない

昨今の新型コロナウイルス感染拡大の

ニュースを聞いて、不安を募らせる皆様も

多いと思います。▼感染症研究の大学教授

は、先日の中日新聞に「ウイルスと共生す

る動物の生活圏に、環境開発などで免疫の

ない人間の入り込むことが、感染症発症の

引き金になり得る」と、警告の記事を載せ

ていました。▼「今回の原因ウイルスが突

きとめられ、人間細胞への侵入経路や増殖

のメカニズムも解明され、抗ウイルスワク

チンが開発されて「感染が終息するのを願

うばかりです。▼人間の行なう「自然との

共生」を掲げた環境開発の負の側面にも注

視することが大切ではないでしょうか。